令和 5 年（2023 年）5 月 11 日

2022 年度 3 つのポリシーに関するアセスメント報告書

教学マネジメント委員会

本報告書は、教学マネジメント委員会が策定した「3 つのポリシーに関するアセスメントポリシー」に基づいて、IR 部門が 2021 年度の各種データを収集、分析、検証した結果をまとめたものである。収集した主なデータは、学則、キャンパスガイド、大学案内、入学者募集要項、ウェブサイト、授業評価（2022 年度前期・後期）、学生調査（2022 年 12 月実施）、累積 GPA、成績評価、退学率、留年率等である。

総括編では、要約した所見を記載し、必要に応じてアセスメント（評価）とアクション（改善案）を記載した。アクションの立案に当たっては、私立大学等経常費補助金「教育の質に係る客観的指標」及び文部科学省「改革総合支援事業評価基準」を参考にした。

1. 今年度（2023 年度）の重点取組課題

重点取組課題	アクション	担当部署
授業改善	・授業への学生の積極的参加を促進する工夫を授業に取り入れる。 ・授業外の学修時間を増やす教育方法を工夫する。 ・DP の「柔軟な思考と表現力」「地域の貢献する積極的態度」に該当する能力を育成する授業の工夫を行う。 ・学生の積極性、主体的学修行動を促進し、授業を活性化する教育方法に関する FD を企画・実施する。 ・授業の工夫を教員間で共有する方策（ティーチングポートフォリオ、アクティブラーニング実践報告集の作成・共有など）を継続する。	FD・SD 委員会 学長企画室
学修成果の把握と活用	・引き続き、大学レベル、学科レベルでの主観的及び客観的学修成果を把握・活用する取り組みを継続する。 ・客観的学修成果を測定するツールとして外部の標準化されたテストである「PROG」の位置づけを明確にし、教育改善の取り組みに活用する。	各学科 IR 室

2．2022 年度重点取組課題の達成状況

重点取組課題	アクション	達成状況
建学の精神等の整理	・建学の精神、教育理念、使命の関係を整理する。 ・学部学科の教育理念の要否を検討する。 ・「建学の精神」の説明文を作成して、大学のキャンパスガイドに掲載する。	・建学の精神、教育理念、使命等の整理を行い、その内容をわかりやすく説明する文章を作成して本学ウェブサイト・キャンパスガイド等に掲載・公表した。
授業改善（1）主体的学修の促進	・授業への学生の積極的参加を促進する工夫を授業に取り入れる。 ・学生の積極性、主体的学修行動を促進し、教室を活性化する教育方法に関する FD を企画・実施する。	・各教員が行っている授業改善のノウハウを共有するため、グーグルクラスルームに「学長企画室」を開設し、これまで蓄積している「アクティブラーニング実践報告」及び「ティーチングポートフォリオ（学内公開を承諾した者の限る）」を掲載し、閲覧できるようにした。 ・9 月の FD 研修会で「ティーチングポートフォリオ作成ワークショップ」を開催した。 ・2 月の全学 FD・SD 研修会で各学科から 1 人ずつ「アクティブラーニング実践報告」を行った。 ・各教員はティーチングポートフォリオ（教育方法の工夫・達成度評価を含む）を提出し、学部長・学科長と面談を行った。
授業改善（2）学修時間の延長	・授業外の学修時間を増やす教育方法を工夫する。	
授業改善（3）応用力・問題解決能力の育成	・授業の中で、応用力・問題解決能力を身に付けさせる工夫を行う。 ・授業の工夫を教員間で共有する方策（アクティブラーニング実践報告集の作成・共有など）を実施する。	
客観的学修成果の把握と活用	・客観的学修成果を測定するツールとして外部の標準化されたテストである「PROG」の位置づけを明確にし、教育改善の取り組みに活用する。	・2 月の全学 FD・SD 研修会で客観的学修成果を把握するツールとして「PROG」の概要、今後の活用方法を紹介した。

・FD 研修会事後アンケート集計結果

質問項目		平均値（5 点満点）	
		FD 研修会（9 月）	全学 FD・SD 研修会（2 月）
1	研修会の内容について興味・関心を持つことができた。	4.28	4.19
2	研修会の内容を理解することができた。	4.31	4.23
3	研修会の内容は適切だった。	4.34	4.13
4	研修会の時間配分は適切だった。	4.15	4.18
5	講師の話は聞き取りやすかった。	4.34	4.27
6	研修会の内容は今後の自分の業務改善に役立つと思った。	4.41	3.98
7	研修会全体として満足している。	4.28	4.10
	合計	4.30	4.15

・主な感想：他学部・学科の教員との意見交換・交流に関すること、今後の実践に関すること、研修会の時間配分に関すること、PROG に関すること、学生調査に関すること、アクティブラーニング実践報告に関すること、など

3. ディプロマ・ポリシー（DP）とカリキュラム・ポリシー（CP）の検証

（1）DP、CP の策定・公表・周知

1）DP・CP を策定している。

所見	・大学・短大及び大学院、各学部・学科で策定している。

2）DP は、各学部・学科の教育目標を具体的能力として適切に表現している。

所見	・2022 年 9 月の大学評議会での見直しにより、全体の階層構造は「建学の精神（教育理念）→使命→教育目的→教育目標→DP」となり、整理されている。 ・教育目標及び DP は、教育目的に記載した人材が持つべき具体的な能力を箇条書きで表現しており、内容の整合性は取れている。

3）CP は、DP と整合性がとれている。

所見	・各学部・学科の開講科目のナンバリングとカリキュラムマップを作成する過程でカリキュラムの体系性（DP との関係）と順次性（学年進行）を検証し、適切であることを確認している。

4）DP・CP を公表している。

所見	・DP・CP は、キャンパスガイド、大学案内、ウェブサイト等に掲載し、公表している。

5）DP・CP を在学生に周知している。

所見	・学生調査の認知度に関する質問では、「よく知っている」と「少し知っている」と回答したものの割合が過去 4 年間徐々に増加している。 「建学の精神」41.1→50.5→51.9→58.0% 「DP」18.5→38.2→42.1→49.4% 「CP」24.6→48.1→53.4→60.7%

（2）管理・運営体制

1）教学マネジメント委員会を年 2 回開催している。

所見	・2022 年度の開催は 1 回であった。 4/4　「3 つのポリシーに関するアセスメント・ポリシー（2022 年版）」を作成 ・「2021 年度 3 つのポリシーに関するアセスメント報告書」は、会議を招集せず報告書案をメールにて委員に配信し、意見を集約して 7/7 の大学評議会で審議・承認した。

2）履修単位上限（キャップ制）を設定している。

所見	・大学では、履修登録単位の上限設定及び GPA 値による上限の緩和を設定し、キャンパスガイドに記載して学生に周知している。 ・短大では、キャップ制度について検討した結果、上限設定を導入しないことを決めている。

3）GPA を履修指導に活用している。

所見	・GPA の活用についてキャンパスガイドに記載して学生に周知している。 ・教務委員会において「GPA に基づいた学生指導について」を作成（2020 年度）し、GPA に基づいた学生指導の実施状況を把握するために学科ごとに「指導実施報告書」を作成し、教務委員会で集約している。

（3）教育の実施

1）全開講科目のシラバスを作成し、公表している。

所見	・毎年度、シラバス作成要領を作成し、実務経験、毎回の授業担当者、ナンバリング、予習復習の時間など記載が義務付けられている項目の記載方法に加えて、自学自習を促し、授業外学修時間を増やす工夫例を記載して周知している。 ・作成したシラバスは、ウェブサイトで公表している。

2）シラバスの内容をチェックし、改善のための指導を行っている。

所見	・学部長・学科長・教務委員によるシラバスチェックを実施している。不備のあるシラバスの指導は科目数、教員数ともに昨年度に比べて半減している。 指導を行った授業科目数 32 科目（昨年 53 科目）、教員数 50 人（昨年 96 人） 主な指導内容：予習復習の時間数、関連する科目欄の記載もれ

3）教員は、シラバスに基づいて授業を実施している。

所見	・学生調査では、「授業はシラバスに沿って行われている」という質問に対して、90%前後（90.4→87.7→91.6→94.9%）が「とてもそう思う」または「そう思う」と回答している。 ・「シラバスは予習・復習の参考になっている」という質問に対して、「とてもそう思う」または「そう思う」と回答している者の割合（71.7→73.6→78.2→81.5%）は年々増加し、2022 年度は 2019 年度に比べて約 10%上昇している。

4）教員は、適切な授業改善の手立てを実施している。

所見	・学生調査「授業の実施状況に関する質問」で「とてもそう思う」または「そう思う」と回答した者の割合 80.8%　「学生が理解しやすい授業方法を工夫している」 79.5%　「学生の理解度に合わせた授業を行っている」 79.1%　「レポートなどの提出物に対してコメントをつけて返却している」 75.5%　「学生の意見を授業改善に取り入れている」 72.0%　「授業中に質問しやすい雰囲気づくりをしている」 ・授業評価で得点が高かった項目 大学　3.49 点「教材など、全体としてよく準備された授業でしたか」 大学院　3.59 点「教員は学生の質問や疑問に適切に対応しましたか」 短大　3.57 点「教材など、全体としてよく準備された授業でしたか」 ・授業評価で得点が低かった項目 大学　3.27 点「質問や発言などにより、授業に積極的に参加しましたか」 大学院　3.32 点「質問や発言などにより、授業に積極的に参加しましたか」 短大　3.46 点「質問や発言などにより、授業に積極的に参加しましたか」
アセスメント	・授業の準備、質問への対応など教員の教育活動に対する評価が高い反面、質問など授業への積極的参加に対する評価が低い。
アクション	・授業への学生の積極的参加を促進する工夫を授業に取り入れる。

（4）主観的学修成果（到達度、満足度）

1）学生は、主体的に学修している。

所見	・学生調査「積極性・主体的学修行動に関する質問」で「とてもそう思う」または「そう思う」と回答した者の割合 87.1%　「授業のグループワークやディスカッションには、積極的に参加する」 57.2%　「疑問に思ったことは、授業後、教員に質問に行く」 36.7%　「疑問に思ったことは、授業中に質問する」
アセスメント	・授業中に質問する学生が少ない。

アクション	・授業への学生の積極的参加を促進する工夫を授業に取り入れる。

2）学生は、十分な学修時間を確保している。

所見	・学修時間　合計 8.8 時間/週（1 日当たり 1.3 時間） 「授業の予習・復習のための時間」1.8 時間/週 「課題やレポート作成に費やした時間」4.3 時間/週 「資格・免許取得のための学修時間」は 2.7 時間/週
アセスメント	・授業外の学修時間は 1 日当たり 1.3 時間に留まっている。
アクション	・授業外の学修時間を増やす教育方法を工夫する。

3）学生は、自己の成長を実感している。

所見	・学生調査「主観的学修成果に関する質問」で「かなり身に付いた」または「ある程度身に付いた」と回答した者の割合 93.2%　「相手の意見を丁寧に聞く態度」 87.2%　「専門分野の知識・技術」 85.4%　「幅広い知識・技術」 85.4%　「物事を様々な視点から考える習慣」 83.1%　「積極的に人とかかわる態度」 81.6%　「現状を分析し、問題点や課題を発見する力」 81.4%　「経験のないことでも積極的に挑戦する態度」 80.9%　「多様な知識・技術を総合して判断する力」 80.3%　「問題が生じたときに、適切に対処する力」 79.5%　「物事を論理的に考える習慣」 78.8%　「将来、地域社会の活性化に積極的に貢献する態度」 76.4%　「自分の意見をわかりやすく伝える力」	
大学の DP 区分	短大の DP 区分	学生調査の質問項目（下線は 70～79%の質問項目）
人への関心と学問の理解	知識・理解	「幅広い知識技術」 「専門分野の知識・技術」
柔軟な思考と表現力	汎用的技能	「物事を論理的に考える習慣」 「物事を様々な視点から考える習慣」 「多様な知識・技術を総合して判断する力」 「自分の意見をわかりやすく伝える力」 「相手の意見を丁寧に聞く態度」
知識の応用力と判断力	総合的な学修経験と創造的思考力	「現状を分析し、問題点や課題を発見する力」 「問題が生じたときに、適切に対処する力」
未知の領域に挑む意欲	態度・志向性	「経験のないことでも積極的に挑戦する態度」
地域に貢献する積極的態度		「積極的に人とかかわる態度」 「将来、地域社会の活性化に積極的に貢献する態度」
アセスメント	・70%台の項目は「物事を論理的に考える習慣」、「将来、地域社会の活性化に積極的に貢献する態度」、「自分の意見をわかりやすく伝える力」の 3 項目であり、DP では「柔軟な思考と表現力」「地域の貢献する積極的態度」の該当する能力であった。	
アクション	・DP の「柔軟な思考と表現力」「地域の貢献する積極的態度」に該当する能力を育成する授業の工夫を行う。	

4）学生は、自己の学修成果に満足している。

所見	・学生調査「満足度に関する質問」で「とても満足している」または「ある程度満足している」と回答した者の割合 92.7%　「保健室・心理相談など相談サービス」 89.3%　「教務課の窓口対応」

	88.6%　「学生課・キャリアサポートセンターの窓口対応」 86.4%　「本学で学び身に付けたこと」 85.6%　「教員と学生の一般的な人間関係」 79.0%　「本学での学生生活全般」 ・「本学での学生生活全般」の満足度は徐々に増加している。(71.3→74.5→78.6→79.0%)

(5) 客観的学修成果

1) 学生は、DP で想定している能力を身に付けている。

所見	・学科レベルでの学修成果の把握・分析 心理学科：自己評価式質問紙による学修成果の把握・分析を行っている。 看護学科：DP の到達度に関するアンケート調査による学修成果の把握・分析を行っている。 保育学科：学修成果評価シートを用いて DP ごとの GPA の平均値を算出し、学修成果を把握・分析を行っている。 食物栄養学科：調理技術、授業評価アンケート、GPA などを活用し、DP に沿った主観的及び客観的学修成果の把握・分析を行っている。 ・PROG による学習成果の把握・分析 他大学の平均値と比べて、リテラシーに関する項目は同等であったが、コンピテンシーに関する項目は低い傾向にあった。

4. アドミッションポリシー (AP) の検証

(1) AP の策定・公表

1) AP は、DP に記載している能力を身に付ける前提として求める学修成果を明示している。

所見	・求める学修成果を明示している。

2) 学修成果は、「学力の 3 要素」に対応している。

所見	・「学力の三要素」に対応している。

3) AP を、公表している。

所見	・ウェブサイト、入学者募集要項、大学案内、キャンパスガイド等に記載し、公表している。

(2) 選抜方法

1) 多様な背景を持つ学生を受け入れる入試区分を設けている。

所見	・2021 年度入試より、学校推薦型入試（指定校、公募制）、一般選抜入試、総合型選抜入試、社会人特別入試、帰国子女入試、外国人入試などの入試区分を設け、多様な背景をもつ学生の受け入れに対応している。 ・短大では専門実践教育訓練給付制度の教育訓練施設として指定され、社会人学生を受け入れている。

2) 各入試区分の選抜方法は、「学力の 3 要素」を多面的に評価する選考方法を採用している。

所見	・選抜方法として学力試験、大学入学共通テスト、口頭試問、小論文、プレゼンテーション、面接、調査書などを採用し、入試区分ごとにこれらの方法を組み合わせて「学力の 3 要素」を総合的に評価している。 ・2021 年度入学者募集要項より、各入試区分における選抜方法の組み合わせと「学力の 3 要素」の関係を一覧表にして掲載している。

（3）採点基準

1）採点基準（ルーブリックなど）を作成している。

所見	・2021 年度入試より、全学科で採点基準をあらかじめ作成している。

2）採点基準は、各選考方法に対応する学力の到達度（学修成果）を評価するものになっている。

所見	・プレゼンテーションの評価基準は、高校生活で学んだことは何か、高校生活で学んだことを入学後どのように活かすかについて発表し、その内容、発表方法、表現力を評価するものなっている。 ・面接の評価基準は、志望動機、積極性、協調性、責任感、表現力、コミュニケーション能力など観点を設定して質問項目を設定している。

（4）入学前教育

1）すべての入試区分で、入学予定者に対して入学前教育を実施している。

所見	・全学科、すべての入試区分で入学前教育を実施している。 ・教務委員会において、各学科の入学前教育の実施内容、課題の提出・指導状況、工夫、問題点、成果、今後の改善案などを集約している。

（5）入学後の追跡調査

1）入試区分別に、留年・退学の動向を把握している。

所見	・大学（2014～2019 年度入学生の卒業時の動向） 福祉心理学科　退学率 11.5%、留年率 3.8% 退学者は一般選抜（A 日程・B 日程）で多く、留年者が推薦Ⅱで多い。 看護学科　退学率 4.4%、留年率 7.4% 退学者・留年者共に一般選抜 B 日程、AO 入試で多い。 ・短大（2017～2020 年度入学生の卒業時の動向） 保育学科　退学率 5.4%、留年率 2.7% 退学者・留年者ともに推薦Ⅰと AO 入試で多い。 食物栄養学科　退学率 4.1%、留年率 0.9% 退学者は推薦Ⅰで多く、留年者は推薦Ⅰと AO 社会人が多い。

以上